

道徳科学習指導案

授業者	泉谷量平
学年・学級	5年2組
場所	5年2組
日時	6月3日(土)1校時

1 主題 「節度ある生活を送るために」 【A 節度, 節制】

(教材「流行おくれ」『きみが いちばん ひかるとき 5年』 光村図書)

2 授業づくりについて

本学級の子どもたちは、度を越すことなく、節度ある生活を送ろうと努力している。例えば、遊びたい気持ちを優先しすぎることなく休み時間中に早めに教室に戻り、授業の準備をしたり、事前にトイレを済ませてから休み時間を楽しんだりする姿が見られる。また、学習とは別の理由でタブレットを触りたいという気持ちが抑えられずに、つついタブレットを触ってしまう姿が年度当初は見られた。しかし、タブレットを学校で利用する目的をクラスで共有することで、5月に入りそういった姿は見られなくなった。しかし、時には自分の思い通りにいかずに怒ったり、周りの人に八つ当たりしてしまうことがある。例えば、臨海学校の班を結成する際に、どうしても一緒になりたい友だちと同じ班になることができず、「このメンバーは嫌。」と感情的に言い放ったり、他の班のメンバーに「この2人がバラバラの班になったら解決じゃない？」と既に決定している班を解体し、自分の思いを通そうとする姿が見られた。自分の欲求が満たされずに、怒ったり、周りに八つ当たりしてしまうことは本学級の子どもたちに限らず、誰も経験したことがあるであろう。また、夜にスマホを利用し過ぎて寝不足になり、学校の学習に支障をきたしていることに気付いていない子どもの中にはいる。

そこで、本時では教材を通して、節度ある生活を送る意義について考え、自分の欲求や周りの雰囲気流されることなくほどよい生活を送ることができるように心がけようとする実践意欲と態度を養いたい。節度ある生活を送るためには、まずは自分の欲求や周りの雰囲気流されることなく行動することができた時のうれしさや、誇らしさに気付くことが大切である。また、自分は周りの人の愛情ゆえの言動であったとしても自分の欲求が通らない時に素直に思いを受け取ることができなかつたり、自分のことを棚に上げて相手のことを責め立てたりしてしまうことがあるという自覚をもつことも大切である。自分自身や友だちの経験から節度ある行動をすることができた時のうれしさや誇らしさに気付いたり、登場人物の人間的な弱さを共感的に捉え、自身にもある弱さを自覚し、内省したりすることで節度ある生活を送ろうという思いが一層高まり、節度をもって節制を心がけようとする実践意欲と態度を養うことにつながるだろう。

今回扱う、「流行おくれ」という教材は友だちの発言に流され、新しいスカートが欲しくなるまゆみとそれを窘めるお母さんのお話である。まゆみは自分の欲求が通らず、わざと大きな足音を立てたり、弟のわたるにきつい言い方をしたりして周りに八つ当たりしてしまう。このお話では自分の思い通りにならなかった時に、つつい人間が陥りがちな姿がわかりやすく表現されている。子どもたちは、教材に描かれたまゆみの姿に、自分自身の姿を重ねて読んでいこう。まゆみの思いを想像し、話し合う中で、自然と子どもたちは節度なく過ごしてしまっていることに気付いたり、節度ある生活を過ごす意義について考えたりすることができる。

以上のような子どもの実態と教材の性質から、指導に際しては次の2点を大切にしたい。1点目は登場人物の気持ちを実感しやすくするために、役割演技を取り入れることである。教材を読んで考えるだけでは、「ちらかった部屋を見渡しているまゆみ」の気持ちを想像しにくい子もいるであろう。まゆみに自我関与し、部屋を見渡す場面を演じることで自分の言動を顧みるまゆみの気持ちを想像しやすくなるのではないかと考えた。また、補助自我(わたる)が途中でまゆみ自身に替わる方法を用いることで、部屋を見回すまゆみの思いがより明確になるように促す。2点目は道徳的見方・考え方を働かせるための発問の工夫である。「何で〇〇し過ぎてはいけないのかな。」「ほどよい生活をするにはどうすればいいのかな。」「ほどよい生活をするとなにかいいことがあるのかな？」などといったように節度ある生活をおくることの意義を問いかけていく。そうすることで教材内のまゆみの思いを考えることに留まらず、自身の生活経験や友だちの生活経験にまで考えが広がり、節度ある生活を送る意義についての理解を深めることができるであろう。

3 本時の展開

(1) ねらい

欲求が通らなかったときのまゆみの姿を通して節度のある生活を送ることの意義を考え、節度をもって節制を心がけようとする実践意欲と態度を養う。

(2) 展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの反応	教師の働きかけ
<p>1 つい～し過ぎる経験を紹介し合い、人間的な弱さを自覚する。</p>	<p>○つい～し過ぎることってあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つい、約束の時間を過ぎてゲームをしちゃうよ。 ・ついスマホを見すぎて夜更かしてしまうことがある。 ・だって、面白いんだもん。やめられないよ。 <p>○つい～してしまうを、止めることはできないんだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんに怒られたら止められるよ。 ・怒られる前に止めなきゃだめだよ。 ・そもそも、何でもし過ぎはよくないよ。 <p>○勉強のし過ぎも？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つい～し過ぎる場面を交流することで、し過ぎることに対する価値観のギャップを明確にし、問題意識の共有につなげる。
<p>学習テーマ なぜ～し過ぎちゃいけないの？</p>		
<p>2 教材文「流行おくれ」を読んで、話し合う。</p>	<p>○まゆみは何をし過ぎているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいものを欲しがり過ぎている。 ・怒り過ぎている。 ・わたるに本を返してないし、しかも怒りをぶつけているね。 ・だけど、最後は怒っていないね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面でのまゆみの行為や気持ちを比較して捉えられるようにするために黒板を使って、あらすじを整理する。
<p>3 役割演技を行い、部屋を見回すまゆみの思いについて話し合う。</p>	<p>◎まゆみさんは散らかっている部屋を見回してどんなことを考えているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたるに言い過ぎたって反省しているのかな。 ・部屋が汚すぎて、恥ずかしくなっているんじゃない。 ・「我慢した方がいいのかな…」って思っているんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技をすることでまゆみの反省する気持ちを想像しやすくする。 ・途中で補助自我をわたるからまゆみ自身に切り替えることで、よりまゆみの思いが明確になるようにする。
<p>4 本時のふり返りをする。</p>	<p>○～し過ぎる自分と上手に付き合うにはどうすればいいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に自分のためになるのか考えればいいんだよ。 ・将来の自分のことも想像してもいいかもね。 ・周りの人のことを考えるといいのかもね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・～し過ぎる自分と上手に付き合うとどんなよさがあるかを自分なりに言語化するように促すことで、度を越すことなく、思慮深く生活することの意義について考えられるようにする。